

【歯科技工士養成学校の危機的状況】

まず、今回、本資料を掲載するに当たって、快くデータの提供及び掲載許可をしてくださいました「日本歯科技工士会」様並びに「全国歯科技工士教育協議会」様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

近年、少子化が進み、大学・短期大学・専門学校他、定員割れに悩む学校が増えてきています。

私立大学・短期大学の定員割れ

日本私立学校振興・共済事業団が毎年行っている調査では、2000年代になってから私立大学の定員割れが全体の4割を超えることが続いており、一部の難関大学への人気・受験が集中している。2007年度の日本私立学校振興・共済事業団の調査では、私立短大の定員割れ率が初の6割超となった。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

「18歳人口・高卒者数&大学・短大受験生数の推移」は、旺文社 教育情報センターの資料
<http://passnavi.evidus.com/teachers/topic/0409/040931.pdf>
をご覧ください。

歯科技工士養成学校も同様な傾向にありましたが、最近はますます危機的とも言える状況になってきたようです。

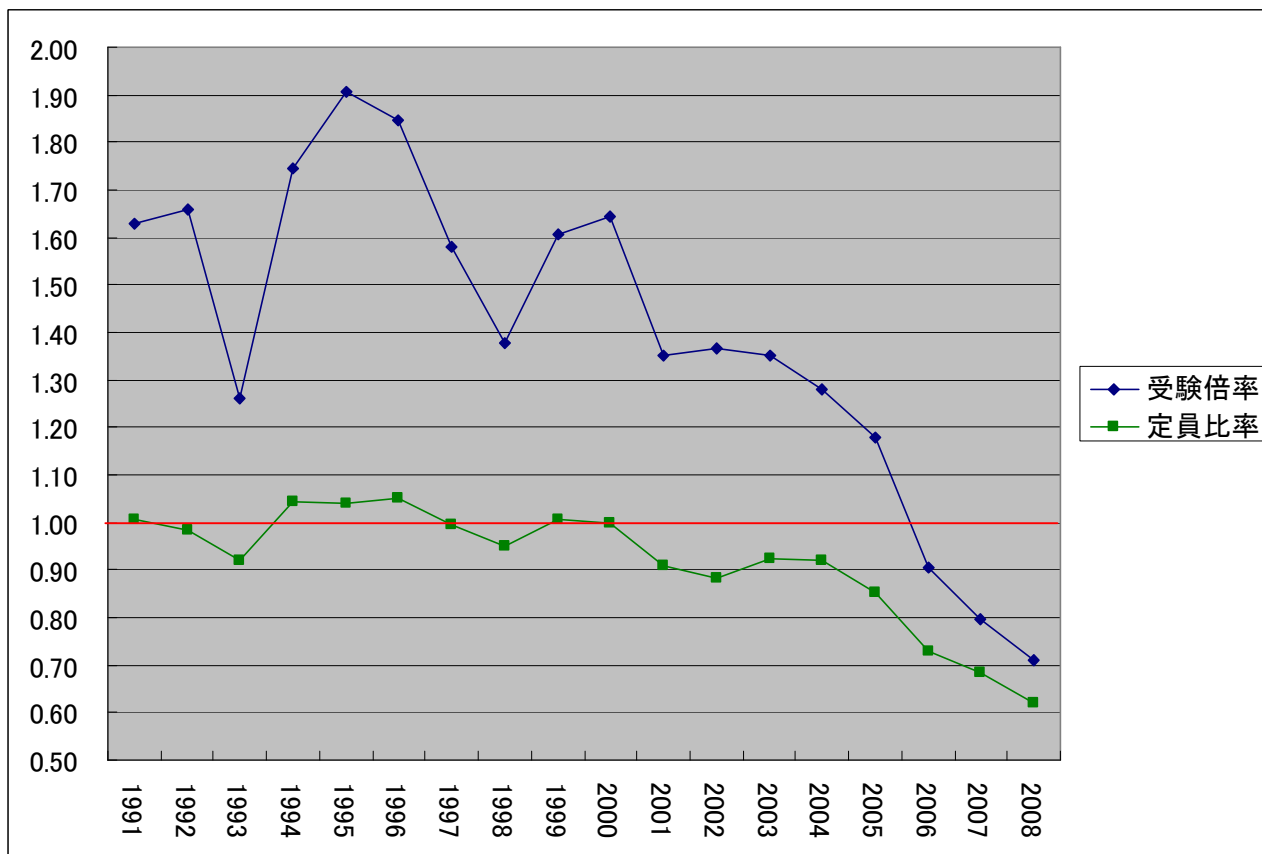
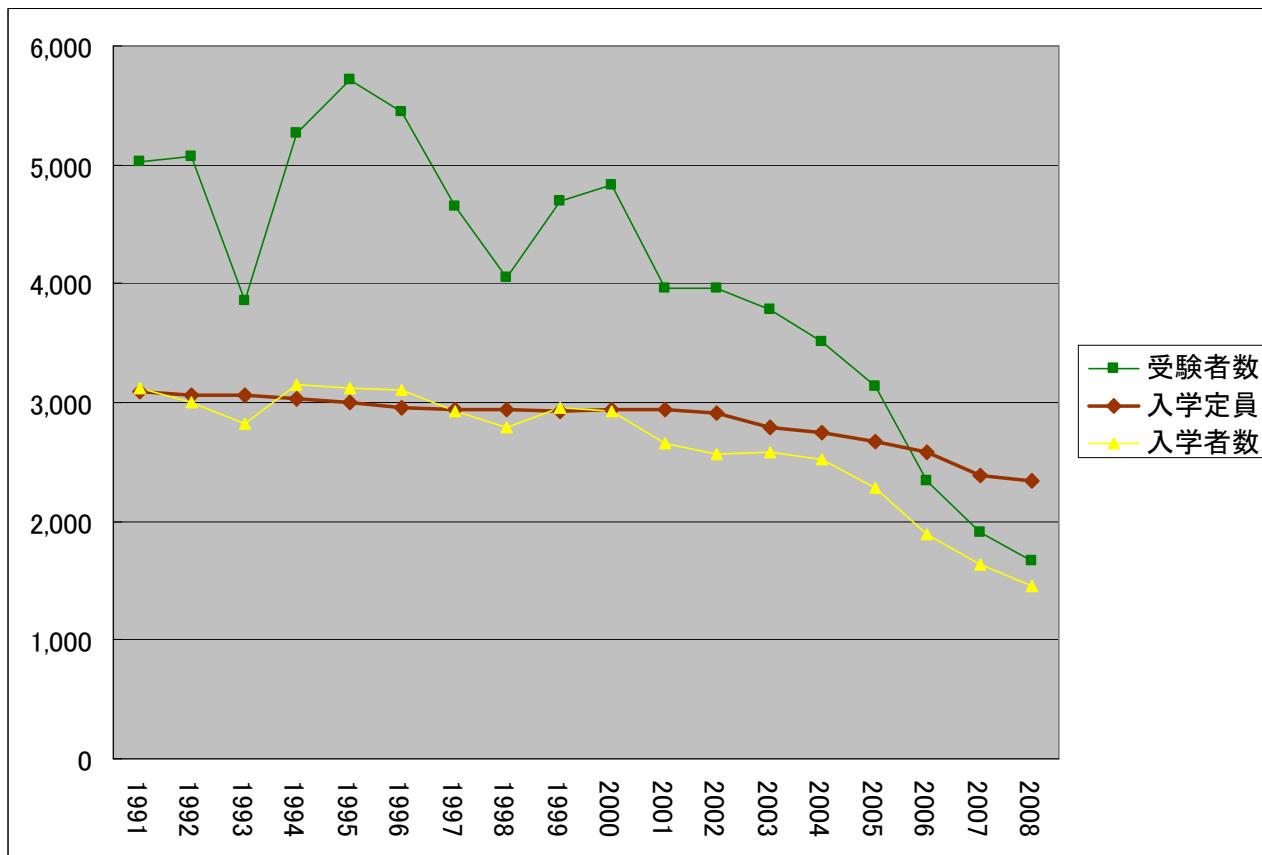
2006年度までの歯科技工士養成学校の募集者・入学者数は「歯科技工士志願者激減」のページ
(<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BB%F5%B2%CA%B5%BB%B9%A9%BB%CE%BB%D6%B4%EA%BC%D4%B7%E3%B8%BA>)

に載せましたが、2007年度、2008年度の状況についてデータを新たに追加しました。

	入学定員	受験者数	受験倍率	入学者数	定員比率
1991	3,091	5,030	1.63	3,114	1.01
1992	3,053	5,063	1.66	3,000	0.98
1993	3,063	3,858	1.26	2,823	0.92
1994	3,023	5,272	1.74	3,150	1.04
1995	2,998	5,714	1.91	3,117	1.04
1996	2,948	5,442	1.85	3,101	1.05
1997	2,938	4,643	1.58	2,922	0.99
1998	2,938	4,043	1.38	2,792	0.95
1999	2,928	4,700	1.61	2,948	1.01
2000	2,938	4,827	1.64	2,930	1.00
2001	2,933	3,962	1.35	2,661	0.91
2002	2,903	3,962	1.23	2,565	0.88
2003	2,793	3,779	1.35	2,578	0.92
2004	2,741	3,513	1.28	2,518	0.92
2005	2,666	3,138	1.18	2,274	0.85
2006	2,583	2,342	0.91	1,886	0.73
2007	2,388	1,900	0.80	1,629	0.68
2008	2,343	1,665	0.71	1,454	0.62

(日本歯科技工士会様からいただいたデータでは、2002年度分、入学者 2,903 受験者 3,962 受験倍率 1.23 となっておりますが、このまま計算すると、受験倍率は 1.36 となります。受験者数あるいは受験倍率のどちらかが誤っていると思われます。)

グラフにしてみます。



2003年あたりから受験者・入学者の減少が顕著になってきています。現代の若者にとっては、歯科技工士は魅力のない職業として映っているのでしょうか。過酷な労働環境を強いられる魅力のない職種であることが原因なのでしょうか。

歯科技工士養成学校に限らず、歯科衛生士養成学校でも平成19年度は56.8%の学校で定員割れを起しており（注）、歯科大学・歯学部でも平成20年度は定員割れをおこした大学があります。

歯科関係の学校がみな定員割れをおこしていますが、一番の理由は「少子化」なのでしょうか。それとも「歯科」に人気のないことが原因なのでしょうか。

（注）プラネット歯科開業.com

<http://www.dentalx.jp/shikakaigyou/contents/column/ozaki/004.html>

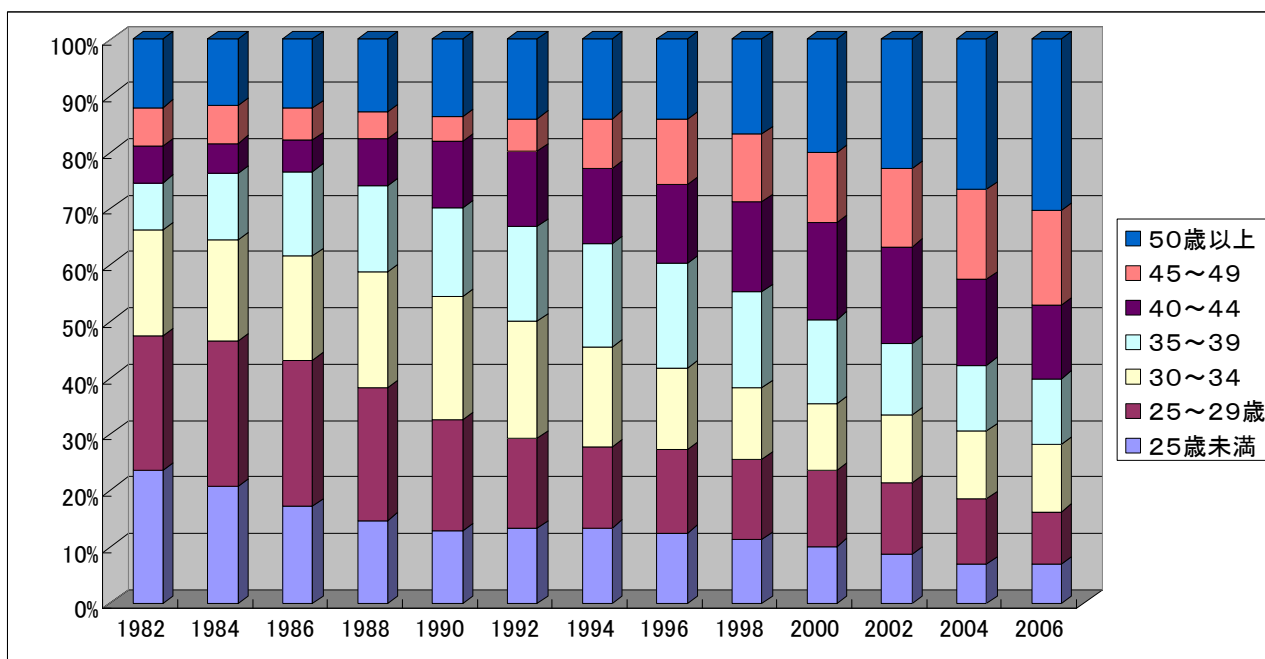
この状況に、歯科技工士の若年者の早期離職問題（7割5分から8割の離職率）が加わります。（歯科技工士離職率のページを参照ください。

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BB%F5%B2%CA%B5%BB%B9%A9%BB%CE%CE%A5%BF%A6%CE%A8>

さらに、就業歯科技工士の高齢化も進行しています。

（就業歯科技工士年齢構成のページを参照ください。

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BD%A2%B6%C8%BB%F5%B2%CA%B5%BB%B9%A9%BB%CE%C7%AF%CE%F0%B9%BD%C0%AE>



海外委託技工物問題の行方も技工士の将来に大きな影響を与えるでしょう。

歯科医師と歯科技工士の間には対立もあり、様々な問題が横たわっているようですが、歯科医師と歯科技工士は対峙するのではなく、これからの歯科医療をどうしていくのかを共に考えていかなければない関係にあるはず。歯科技工士の問題は歯科医師の問題でもあります。日本の歯科医療をどうするのかをお互いに信頼感を持って取りまなければいけない時期は既に来ています。

2008/07/02

みんなの歯科ネットワーク
チュー with TEAM T.S.T.